

給食だより



西東京市立ひばりが丘中学校

令和8年1月8日

新しい年が始まりました。寒さが一段と厳しくなり、感染症が流行する季節です。給食当番はマスクを付けて配膳作業をしますので、マスクを忘れずに持ってきてください。寒さに負けずに、栄養バランスのよい食事と十分な睡眠をとって元気に乗り切りましょう！

❖ 給食当番のエフロンを忘れずに持ってきてきましょう！

学期末に給食袋を持ち帰った当番のみなさん、お洗濯・保管をありがとうございました。3学期の当番に気持ちよくバトンタッチできるよう、忘れずに持ってきてください。3学期の給食は1月9日(金)から始まります。よろしくお願いいたします。



❖ 1月24日～30日は「全国学校給食週間」です 🍱

●学校給食の始まりは明治22年(1889年)、山形県の私立忠愛学校で貧しい子どもたちへ食事を提供したところからとされています。この学校はお寺の中にあり、お坊さんが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。

●大正12年(1923年)には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励され各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなりました…。

●戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21年(1946年)12月24日に LARA(アジア救援公認団体)から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。

●昭和29年(1954年)に「学校給食法」が成立したことで実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置づけられました。主食はパン中心でしたが、昭和51年に米飯が正式に導入され、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していきました。

🍱 学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も「子どもたちが飢えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」という願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるように、学校給食は「教材」としての役割も担っています。



❁ 12月の給食よい① 「おでん」

おでんに入る具材はそれぞれ別で煮て、最後に合わせています。丁寧に作ってもらいました。



大根、にんじん、こんにゃく、揚げボール、
ちくわ、ちくわぶ、がんも、うずら卵が入りました！



❁ 12月の給食よい② 「アルファ化米・防災献立」

西東京市で備蓄しているアルファ化米を使ってドリアを作りました。



熱湯を注いで 15 分ほどで食べられます。
食感は少し違いますが、味はおいしいお米です。

